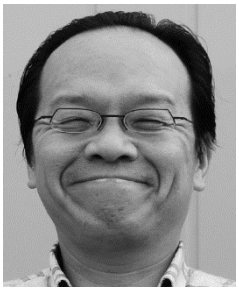
科目名			担当教員	
社会福祉援助技術論Ｂ			川口　正義	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CE3072	２	１	RorSR (講義)	２年以上
履修登録条件	「社会福祉援助技術論Ａ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。			
生成 AI 利用レベル	レポート　：　C		試験（スクーリング含む）　：　C	



科目の概要

■科目の内容

「社会福祉援助技術論 A」の項をご参照ください。

本科目では、「社会福祉援助技術論 A」の学修内容を踏まえた上で、以下の内容について学びます。

１．様々な実践モデルとアプローチ
２．ケースマネジメントとケアマネジメント
３．グループを活用した相談援助
４．コーディネーションとネットワーキング
５．社会資源の活用・調整・開発
６．スーパービジョンとコンサルテーションの技術
７．ケースカンファレンスの技術
８．事例研究・事例分析―意義・目的・方法・留意点―
９．その他

■到達目標

１）相談援助において対象をどのようにとらえるかについて述べることができ、さらに対象理解に際して援助専門職に必要な姿勢、専門性について解説することができる。
２）ソーシャルワーク実践理論の分化・多様化の動向を踏まえたうえで、実践モデルと実践アプローチの意味と内容について解説することができる。
３）治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルの特徴について述べることができ、さらにジェネラリスト・ソーシャルワークにおける三つの実践モデルの活用の仕方について解説することができる。
４）従来の実践アプローチ（心理社会的、機能的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容）の発展史を踏まえたうえで、新興アプローチ（エンパワメント、フェミニスト、ナラティヴ、EBSW）の内容、及び注目されるに至った社会的背景と意義について説明することができる。
５）ケースマネジメント、グループ活用、コーディネーションとネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、スーパービジョンとコンサルテーション、ケースカンファレンス、事例研究・事例分析の各技術の意義と目的について説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「社会福祉援助技術論 A」と共通）

※「社会福祉援助技術論Ａ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

１ ）社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座７　相談援助の理論と方法Ⅰ（第３版）』中央法規出版、2015 年（第３版でなくても可）

２ ）社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座８　相談援助の理論と方法Ⅱ（第３版）』中央法規出版、2015 年（第３版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015 年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。スクーリングにあたって、当日、講義ノート、資料を配付し使用します。

【参考図書】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座６　相談援助の基盤と専門職（第３版）』中央法規出版、2015 年（第３版でなくても可）

浦河べてるの家『べてるの家の「非」援助論―そのままでいいと思えるための 25 章―』医学書院、2002 年

加茂陽編『ソーシャルワーク理論を学ぶ人のために―ソーシャルワークの最新諸理論・事例・議論―』世界思想社、2000 年

北川清一・久保美紀編著『社会福祉の支援活動―ソーシャルワーク入門―』（シリーズ・ベーシック社会福祉②）、ミネルヴァ書房、2008 年

社団法人日本社会福祉士会編『改訂社会福祉士の倫理―倫理綱領実践ガイドブック―』中央法規出版、2009 年

仲村優一・一番ケ瀬康子・右田紀久恵監修、岡本民夫・田端光美・濱野一郎・古川孝順・宮田和明編『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版、2007 年

※鳥瞰図的な視野から社会福祉学研究の現状と将来展望を示した書。高価な本なので大学図書館などで閲覧してみてください。

以下の雑誌論文、学会誌などをレヴューしますと、レポート課題、本科目の学修に際して参考となる先行研究を知ることができますので、調べてみてください。

『ソーシャルワーク研究』（相川書房）　『社会福祉学』（日本社会福祉学会）

『社会福祉研究』（財団法人鉄道弘済会）　『月刊福祉』（全国社会福祉協議会）

その他、スクーリング時にも講義内容に合わせ、適時、紹介します。

スクーリング

▶オンデマンドのみ

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、ソーシャルワークがどのような考え方に基づいて組み立てられているのか。またその支援対象である「人」「問題」「状況」に対し、どのようにかかわるのか。その理論と方法について学びたいと思います。そして、その学びを通して、支援を必要とする当事者（利用者）の存在とその呈する生活課題（日常生活世界）を “ ソ

ーシャルワーカーらしく考える ” とは、どのような視点とスタンスを有する営みであるのか、自問していただきたいと思います。

さらに、スクーリングでの学びが学生の方々一人ひとりにとっての「ソーシャルワーカー・アイデンティティ」と「援助観」の構築へとつながる一契機となり得たらと願っています。そのためにスクーリングでは、具体的事例の紹介や学生の皆さんとの双方向の意見交換なども行いつつ、一緒に学びの時間を創っていきたいと思っています。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	相談援助における対象の理解	社会福祉における対象論
2	さまざまな実践モデルとアプローチ	援助観の変遷、実践モデルの内容、構成主義アプローチ、ＥＢＳＷ
3	相談援助に必要な技術①	グループの活用、ケースマネジメント、コーディネーションとネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発
4	相談援助に必要な技術②	スーパービジョン、ケースカンファレンス、事例研究
5	ソーシャルワーカー・アイデンティティの構築に向けて	構築に際して必要な視点、姿勢
6	質疑応答	
7	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。途中でワークも行います。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況 50%＋スクーリング試験 50%（持込はすべて不可）

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえたうえで、試験テーマについて自分自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書は各章とも具体的事例を例示、検討するスタイルで理論と方法について記述されています。ソーシャルワークとソーシャルワーカーに対するイメージを構築するうえで参考となるでしょう。教科書を通読され、自らの有するイメージを整理されたうえでスクーリングに参加されることをお勧めします。

■スクーリング事後学習

講義ノートを読み直し、関連する教科書の箇所を復習してください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	対象の理解	社会福祉援助活動の概念と定義、対象のとらえ方について理解する。	相談援助において「対象を理解する」ことの必要性と意義、必要とされる視点について理解しましょう。
2	ケースマネジメント①	ケースマネジメントの基本、過程、アセスメントの特徴、ケアプランの作成・実施の特徴について理解する。	ケースマネジメントの必要性について考え、その過程についてソーシャルワークの過程と対比させながら理解しましょう。
3	ケースマネジメント②	ケースマネジメントの特徴、ケースメネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。	ケースマネジメントの特徴について整理し、ソーシャルワーカーが実施するケースマネジメントの独自性について理解しましょう。
4	グループを活用した援助	人間にとっての集団の意味、グループワークの意義、自助グループを活用した相談援助について理解する。	グループワーク、サポートグループ、当事者組織、自助グループの相違と特徴について理解しましょう。
5	コーディネーションとネットワーキング	コーディネーションの目的と意義、方法・技術・留意点、及びネットワーキングの意義と目的、方法について理解する。	コーディネーションとネットワーキングの必要性と関係について理解しましょう。
6	社会資源の活用・調整・開発	社会資源の種類、活用・調整・開発の意義と目的、方法、留意点、ソーシャルアクションによるシステムづくりについて理解する。	社会資源の開発（再資源化と開発）、ソーシャルアクションがクライエントの権利を擁護していくうえで重要であることを理解しましょう。
7	実践モデルとアプローチⅠ	実践モデルとその意味、３つの実践モデル、ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開について理解する。	実践モデル、アプローチが分化・多様化している状況、３つの実践モデルの内容と相互の関係について理解しましょう。
8	実践モデルとアプローチⅡ	心理社会的、機能的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容の６つの実践アプローチの内容について理解する。	主にケースワークの場面で活用される６つの実践アプローチの特徴について理解しましょう。
9	実践モデルとアプローチⅢ	エンパワメント、ナラティブ、実存主義、フェミニスト、解決志向の５つの実践アプローチ、実践アプローチをめぐる課題について理解する。	実存主義アプローチを除き、それまでのアプローチがもつ限界を指摘しつつ登場してきたものであることをふまえ、その特徴について理解しましょう。
10	スーパービジョンとコンサルテーションの技術	スーパービジョンの意義と目的、方法、留意点、及びコンサルテーションの意義と内容について理解する。	スーパービジョンの必要性と３つの機能、スーパービジョン関係形成の重要性について理解しましょう。
11	ケースカンファレンスの技術	ケースカンファレンスの意義と目的、運営と展開過程、実際、評価と普遍化について理解する。	ケースカンファレンスの目的を五つの視点から整理し、その意義について三つの視点から理解しましょう。
12	個人情報の保護	個人情報の定義、個人情報の考え方、個人情報保護制度、個人情報保護の課題について理解する。	クライエントの生活と権利を守り、支えていくために、個人情報とどう向き合い、いかに保護し、活用するのか、考え、理解しましょう。
13	情報通信技術の活用	情報通信技術と福祉情報、相談援助における情報通信技術の活用、留意点について理解する。	情報通信技術が必要となってきた社会的状況を理解したうえで、相談援助における活用のあり方について理解しましょう。

14	事例研究・事例分析	事例研究の目的と意義、方法と留意点、及び事例分析の目的と意義、方法と留意点について理解する。	事例研究と事例分析の相違を整理し、それらがソーシャルワーカーの自己研鑽にとって必要かつ重要であることを理解しましょう。
15	相談援助の実際	ミクロ、マゾ、マクロの各レベルの具体的事例を通して、相談援助について理解する。	具体的事例を通して、ソーシャルワーク援助の対象の広さと実践の広さを理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	**課題名：「私の考える『援助』観」** 自らの「援助」観について論述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

ソーシャルワーカーに必要とされる相談援助の価値・原則、相談援助の過程および相談援助の技術について「座学で学ぶ」ことの意義とは、何でしょうか？

以下の 2 点に留意して考えてみてください。

（「社会福祉援助技術論 A・B」に共通）

1. ソーシャルワーカーとして仕事をしようとする際には、いかなる実践の場においても「問題となる状況」を全体的にとらえ、可能となる活動の選択肢を広く検討し、思考し、さらに利用者・当事者や関係機関と連携して活動していく実践が必要とされます。

そして、その際には既存の相談援助の枠組みを駆使した支援のみならず、利用者・当事者の視点に立ち、場合によっては既存の枠組みを超えて制度やサービスの変革を視野に入れた支援に着手せざるを得ません。

換言するならば、ソーシャルワーカーは自己認識や内省性を高めつつ、利用者・当事者の存在そのものに関心を示し、既存の知識や理論に基づく枠組み（理解や思い込み）に囚われることなく、利用者・当事者の呈する「事実」や取り巻く「事象」について分析し、思考する方法と姿勢を修得できていることが求められているといえるでしょう。

教科書に記述されている内容（先行研究）に対しても、ただ単にそれを覚えるのみでなく、疑問や批判的な視点をもちながら学び、自らの見解を育んでください。

2. わが国においては、いわゆる「理論と実践の乖離問題」の一端として、「ソーシャルワークの理論を学ぶことによって培われるソーシャルワークに対するイメージ」と「現場実践を通じて培われるソーシャルワークに対するイメージ」の間に大きな“ギャップ”があることが指摘されています。

理論と実践をつないでいくことは難しい営みであるのかも知れませんが、しかしその 2 つは相対立するものではありません。「理論に支えられた実践の重要性」および「実践を支える理論の必要性」の双方を受け入れられるソーシャルワーカーでありたいものです。

本科目を通し、相談援助における理論、知識、技術等について「座学」で学んでいくわけですが、その「学びの眼差し」の先に利用者・当事者と呼ばれる人びとの暮らしと生のあり方を位置づけ、実践とのつながりの可能性を意識しながら学んでください。

どこに「顔」（学問的関心）を向けながら取り組むことが、ソーシャルワークについての意味ある「座学」学修となり得るのか？―そのような意識も頭の隅においていただけましたら幸いです。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

ソーシャルワーカーには「時代の風」を感じ、読みとる能力が求められます。また、ソーシャルワークの過程においては、自分とは異なる存在である利用者・当事者に対し誠実に向き合い、その人生に関心を寄せ、言葉にできないその人の痛み、哀しみ、苦悩等を感じとることができる関係が求められます。

しかし、残念なことに「時代の風」は冷たく、混沌としており、利用者・当事者のみならずソーシャルワーカーをも翻弄させています。また、そのソーシャルワーク実践が援助を提供する側の意図や立場が優先される中で行われてしまっている、まさに「当事者主権」のスローガンとは程遠い現実も散見されます。

このような状況を踏まえたとき、「人を援助する」とはいかなる意味をもつのでしょうか？　あるいは「ソーシャルワーカー」とはいかなる営みを行う人のことをいうのでしょうか？　さらに、利用者・当事者を“主人公”にした援助とは、いかなるものであるべきなのでしょうか？―これらについて自問し、再考する必要に迫られています。

これらの問いに答えるためには、自らの準拠している価値・倫理観のあり様を見つめ直す作業が不可欠となります。また、なぜ自分が援助専門職（ソーシャルワーカー）を目指そうとしているのか？その思いの「原点」およびその形成過程における「こだわり」（パッションとミッション）の中身を振り返る作業も必要となってくるでしょう。

ソーシャルワーカーの実践力は時代の動向を利用者・当事者の生活実態と照合しながら的確に把握できることにより蓄えられます。あなたはどのように「時代の風」を感じ、読みとっていますか？　そして、その中であなたが希求し、実践していきたいと考えているソーシャルワークとはどのようなものですか？

本科目の学修のまとめとして、また自らの「ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティ」を構築していくために、あなたが望ましいと考える「援助」観について“自分の言葉”で述べてください。

【論述式レポート作成に際しての留意点】（「社会福祉援助技術論 A・B」に共通）

１．以下のような問題意識と姿勢をもっていただくことを望みます。

① 「レポートだから調べたことをそのまま書けばいいや」ということにはなりません。レポートは「小論文」の一種です。よってレポート課題として与えられたテーマに対して、“自分ではどのような視点で、どのように考えられるのか”を明確に伝えることが求められます。

「良いレポート」とは、ただ単に調べてまとめたものではなく、自分の考えていること（主張）が読む人に伝わるレポートのことをいいます。

② そのためには、教科書以外にも自分の見解を深める上で役に立ちそうな「文献」を手に取り、読むことが必要となります。

なお、その際に文献の示されている先行研究を無批判に受け入れ、体裁を整えたレポートを書くのではなく、疑問をもって先行研究を批判的に検討した上で、自分の考えを述べることを心がけてください。「自分自身の言葉」で「自分自身の考え」を述べることで「自分らしいレポート」が仕上がります。

③ また、“自分は何を言いたかったのか？　今はっきりとわかっていることは何であり、またわかっていないことは何なのか？　いったい自分は何を考えているのか？”―と、自分自身に対して問い直す作業を心がけてください。「推敲を重ねる」ことでその作業も進みます。

④ レポートは科目履修に伴う単位修得のためには必須のものですが、レポートはそのために仕方なく書くものではありません。「自分自身の考え方・思想を創りあげる」ために書くものです。大学での学修の本来の目的は、そこにあります。

２．以下の点に留意してレポートを作成してください。

① 手書きにしろワープロ・パソコン印字にしろ、論述表記（原稿用紙の使い方）の基本ルールを遵守してください。

② どこまでが文献を引用・参照したものであり、どこからが執筆者の独自の見解であるのかがはっきりとしない場合、そのレポートは全体として「盗作」であると疑われるおそれがあります。ましてや教科書の文章をそのまま書き写して列記しただけのものは論外です。

③ 引用・参考文献の出典表記と注釈の表記方法には、一般的に「従来型」と「近年型」の２つがあります。どちらがいいかは一概にはいえませんし、決して統一されてもいませんが、『学習の手引き』や「文章作成法」関係の本などを参考にして基本的な表記法についてご修得ください。また、文献の引用・参考に際しては直接引用、言い換え、要約などについて正規のルールがありますので、ご修得ください。正規の表記法を用いることで、そのレポートの説得性と信頼性も高まります。

従来型：注釈も参考・引用文献も一緒に、本文中に通し番号の小さな肩数字をつけて表記し、章末や巻末（論文末）にその通し番号順に一括して表記する。

近年型：注釈は（注 1）のように本文中に括弧つきで大きく表記し、参考文献も本文中に著者名・発表年のみを括弧つきで（川口、2008）のように表記する。

引用文献は引用分末尾に著者名・発表年・引用箇所を括弧つきで（川口、2008、p.123）のように表記し、章末や巻末（論文末）に注釈と引用・参考文献一覧とを別々に記載する。

④ 「文献」には、主として単行本としての「図書」と、逐次刊行物としての「雑誌論文」があります。ソーシャルワークの領域でどのような文献があるのか、知っていますか？ 必要に応じて把握し、活用していってください。

⑤ 文献検索の方法としては、大別して「イモヅル式検索法」と「二次資料検索法」があります。それぞれに長短がありますので、併用することが望ましいです。なお、インターネット検索を利用しての執筆には特別の注意が必要ですのでご留意ください。

イモヅル式検索法：一つの文献（本や論文）の巻末などに記載されている「引用・参考文献」の中から重要と思われるものをピックアップし、そこから次々と文献をたどっていく方法。

二次資料検索法：分野ごとに集めた文献データベース（文献目録、インターネット、CD-ROM）を用いて文献・資料を集める方法。

⑥ 引用・参考文献の出典表記と注釈の表記方法、および文献探索の方法をはじめ、レポートや論文を書くときの基本的ルールや心構えについては、以下の本にわかりやすく記述されていますので、ご参照ください。

小笠原善康『大学生のためのレポート・論文術』講談社、2002 年

なお、インターネットを使ってレポート・論文を書く際の方法、留意点については、以下の本をご参照ください。

小笠原善康『大学生のためのレポート・論文術―インターネット完全活用編―』講談社、2003 年

科目修了試験

■評価基準

１ ）各出題に含められているポイントすべてについて論述されていること。

２ ）ポイントに関して教科書のなかで説明されている内容を理解していること。

３ ）論理構成と展開が明確であること。

４ ）記述の分量（1 問あたり 400～800 字程度）が確保されていること。